

令和3年3月31日

令和2年度

# 事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

## I. 施設関係

### 1. 特別養護老人ホーム

#### (1) はじめに

本年度は定員 40 名に対し、31.6 名の入所者数でした。月平均利用者実人員は 33.3 人と、昨年と比較し 0.8 人の減少です。長期入院、看取りなどによる退所者は 8 名、新規利用者は 8 名です。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 83.0 歳、女性 90.4 歳であり、男女合計の平均年齢は 88.4 歳です。なお、特養の年間平均稼働率は 79.32% です。令和元年度 75.72% に比べると、稼働率は 3.6% 上がっています。

表 1 前年度との比較 定員 40 名

項目	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
平均年齢	88.7 歳	88.0 歳	88.4 歳
平均介護度	4.49	4.44	4.3
年度末平均人数	32 人	33 人	32 人
延べ定員数	14,600 人	14,640 人	14,600 人
1 日平均利用者数	34.1 人	30.3 人	31.6 人
稼働率	85.19%	75.72%	79.32%

表 2 退所者 令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

退所者	人数	理由
死亡	3 名	入院による死亡
死亡	3 名	施設での看取り
入院	2 名	療養型病院へ入院
その他	0 名	在宅復帰→新とみ通所介護へ変更

#### (1) 入・退所の現状

- ①入院以外は、施設での看取りを行い、看護師・介護職・嘱託医・家族との連携を密に長く過ごしていただいた居室にて、最期を迎えてもらうことができました。
- ②新規利用者は 8 人でした。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多いが、本年度は環境への適応が順調に行われました。
- ③ 新規利用者の声かけにおいては、中央区で入所調整したリストに沿って声かけをするシステムになっているが、この数年入所に時間がかかるケースが多くなっており、在宅での介護を希望するご家族も増えているのが現状です。  
声かけにより、断られる理由として  
・他施設との併願のため、すでに他施設への入所が決まっている

- ・現在入所している施設(有料・老健・グループホーム等)で満足している
- ・まだ在宅で、介護をしていきたい

更に 3 月頃から感染が拡大していった新型コロナウイルスの影響が大きく、入所を自粛する傾向が見られました。

## (2) 事業実績について

利用者の平均介護度は令和元年度の 4.49 に対し、令和元年度は 4.44 とほぼ変わりなく推移しています。(別表 2 参照) 特養での対策としては、健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることです。そのため

- ①健康管理の徹底、衛生管理の徹底、日常生活での異常に対する早期発見・早期対応の徹底。
- ②ハード面の充実として、インフルエンザやノロウィルスの感染防止他、感染拡大の新型コロナウイルスへの防止策として、空気清浄機他、施設全体の除菌剤の配置などを強化しました。更に、万一に備えて「陰圧装置を設置した居室」を準備し、利用者・介護・看護職の安全体制を整えました。
- ③嘱託医による利用者の心身の定期的な健康管理として
  - ・定期的な健康診断、予防注射の徹底による感染症対策+
  - ・精神科医による精神面のケア、認知症状の緩和
  - ・歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持

その他、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力しました。多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図っていきます。



千葉歯科訪問診療  
定期的な口腔ケア



有資格介護職による  
喀痰吸引

### (3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組みました。特に感染症防止では、新型コロナウイルスの出現により職員、利用者のマスク着用、手洗い、消毒、検温等の感染防止に注力しました。更にフロア、居室における換気に注意を払い、時間を測っての換気等を実施しました。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動に力を入れ、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努めました。コロナ禍の中で、ボランティア、インターンシップとのふれあいの機会がなくなりましたが、介護等体験実習の実習生とのかかわりの中で、新たな交流の機会をもつことができました。

リハビリテーションは、機能訓練担当の理学療法士を中心に、他職種との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することができました。自立支援を目的とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取り組みました。

表3 レクリエーションにおける効果

プログラム	心身機能への効果
音楽療法	唱歌、懐メロ等は、認知症状の緩和や精神面への良質な刺激となっている
セラピードック	月に2回のセラピードックは、利用者に寄添うことで癒しや、リハビリの効果をもたらせている
健康吹き矢	楽しみながら、自然に呼吸法を体得できる
書道・そろばん	昔、覚えのある方は自然に筆が動き、指が動き、モチベーションが上がってくる
チェアエクササイズ ダンスセラピー	身体を動かし、自由に伸び伸びと身体を表現でき、終わった後も、爽快感が残っている
アロマセラピー	アロマの香りを楽しみながら、五感に刺激を与えることで感性が豊かになってくる
コミュニケーションロボ ット・パロ、アイボ	パロとの触れ合いにより、認知症の不安感、不穏を緩和してくれる。アイボは、様々な会話を引き出すきっかけになり、精神面の活性化が見られる



アザラシ型ロボット・パロとの  
スキンシップ



イヌ型ロボット・aibo との  
触れ合い

## 2. 短期入所生活介護

### (1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的利用しやすい状況でした。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供しています。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげています。

別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年度102.54%に対して令和2年度は100.67%と減少しています。ショートステイ単独での年間稼働率は、243.01%であり、昨年度より38.32%減少していることから、特養の稼働率が3.6%上昇しているため、ショートステイのベッド稼働率を減少させたと言えます。

#### ① 周辺環境の変化

隣接区においても特養、老健の増加等があり、競争激化となっています。

本年度は、コロナ禍の中において様々な制限がもたらされたことで、稼働率にも影響を及ぼしています。

#### ② 地域の課題

- ・ 認知症独居高齢者の健康管理 食事・入浴・服薬等
- ・ 認知症高齢者の徘徊・火の不始末等
- ・ 独居高齢者の引きこもりによる認知症の進行
- ・ 高齢者世帯における体調管理
- ・ 高齢者世帯、独居高齢者の金銭トラブル

周辺環境の情報収集・地域の課題を分析し、ニーズを抽出することが重要です。緊急ショート、医療的対応等、多様なニーズにいつでも対応できるだけの層の厚い体制づくりをし、利用者の増員を図っていきます。

表4 前年度との比較 定員6名（空床利用）

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
年度末平均年齢	85.4歳	85.1歳	85.3歳
年度末平均介護度	3.11	3.26	3.39
年度末平均人数	59人	43人	50人
延べ定員数	2,190人	2,196人	2,190人
1日平均利用者数	13.0人	16.9人	14.6人
稼働率	216.26%	281.33%	243.01%

## (2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機(介護ロボット)を活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能としました。

介護：身体の状態に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体の状態に適した食事を提供しています。

入浴：週3回以上。身体の状態に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っています。

個別機能訓練：小集団訓練の他、希望される利用者には、理学療法士による個別機能訓練が受けられます。その他、レクリエーション・音楽療法・セラピードッグ(リモート)など。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応。

## (3) サービスに関する苦情・相談

次のような苦情の申し出があり、誠意を持って対応し解決しました。

- ・持って行った衣服が紛失した。
- ・退所時に他人の衣類等が紛れ込んでいる。
- ・同じ部屋の利用者の声が大きく夜眠れなかった。

#### (4) 一年の状況と今後の課題

ここ数年の特徴として

##### ①2ヶ月前の申込みが減少

ショートステイの申込みは通常2ヶ月前を基本としているが、本年度の申込み状況もこれまでの実績の半数くらいでした。理由としては、家族の生活スタイルの変化・ニーズの多様化により「2ヶ月前の申込み」という、決められた枠にはまらない家族のニーズが増えてきたことが考えられます。1ヶ月前頃より徐々に増えている傾向です。

##### ②地域、在宅の課題への対応

在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきています。地域・在宅における課題が、そのままショートステイ利用につながっているケースが多く、緊急ショート利用が顕著に増えています。

緊急ショートにつながるケースとして

- ・ 認知症利用者の徘徊、火の不始末によるボヤ、誤薬、異食等、命の危険に直面したケース
- ・ 認知症利用者の金銭トラブル
- ・ 独居の認知症利用者における医療的ニーズ：服薬管理、インスリン等
- ・ 介護者の病気、入院等

地域・在宅の課題は山積みです。認知症の進行により「これまでできていたことができなくなった」ことへの緊急ショート対応は、年々増加傾向にあります。

在宅利用者、家族を支えるためのショートステイの役割は、今後ますます重要となるでしょう。そのためには、いつでも対応できる体制づくりと、職員への教育が不可欠です。

### 3. 通所介護

#### (1) 利用者の状況

##### ①リハビリニーズへの対応

年齢、性別に関係なくリハビリへのニーズは高く、デイサービスへの目的のひとつでもあります。在宅生活を維持していく上で、心身機能の維持、日常生活動作の維持は重要であり、理学療法士のみならず、看護、介護、相談員が連携してニーズに対応しています。

##### ②朝食サービス～夕食サービスまで対応

食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス等

利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に努めました。  
 また、食事サービスだけではなく、食前・食後の服薬管理も行っていることで、在宅の負担軽減の役割を担っています。食事サービスは年度によって増減を繰り返しつつも、ニーズは根強く継続されています。

《在宅における課題》

- ・ 独居のため、食事、服薬管理が難しい→ 体調の悪化、病気の進行
- ・ 高齢者世帯のため食事作りが困難→ 体調の維持が難しく異常等にも気づきにくい
- ・ 家族が就労中→ 食事時間をとるのが難しい、不規則になりがち

表5 朝食サービス・持帰り弁当・夕食サービス利用人数

令和2年4月1日～令和3年3月末

項目	利用人数	延人数
朝食サービス	108 人	1,005 人
1ヶ月平均	9	83.75
持帰り弁当	209 人	2,168 人
1ヶ月平均	17.4	180.7
配食サービス	23 人	321 人
1ヶ月平均	1.9	26.75
夕食サービス	92	920 人
1ヶ月平均	7.7	76.7

③医療的対応について

前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいました。  
 胃ろう2名、インスリン4名、バルーンカテーテル2名、在宅酸素2名、痰吸引5名  
 褥瘡処置6名

これら医療的対応に応じるため、看護師2名体制をとり、手厚いケアに努めています。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題です。また、訪問診療を利用している利用者が年々増えており、デイの看護師、相談員と、居宅ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との連携が必須となっています。本年度は、更に連携を厚くしています。

令和元年度の利用実人員は別表8のとおり1,001人、利用実人員は前年度1,183人と比べて182人減少、稼働率は68.51%と昨年より8.27%下回っています。延べ利用数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均8.5回となり、前年よりも約4.9%増加しています。利用者の平均年齢は別表7のとおり男女合計の平均では83.5歳となっています。内訳では男性81.1歳、女性85.4歳で、前年よりも高くなっています。平均介護度は3.04と、前年よりも低いです。

新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家



族の就労継続、リハビリ、入浴希望等、様々な理由による申し込みがあります。デイサービスに係わる送迎利用率は98.4%、入浴利用率は83.9%となっています。前述したとおり、特養・ショートに関しては既に100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務であり、長期化するコロナ感染の状況を見据え、様々な取組みを図る必要があります。

表6 前年度との比較 定員34名

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
年度末平均年齢	80.1歳	83.1歳	83.5歳
年度末平均介護度	2.92	3.14	3.05
実人数	1,148人	1,183人	1,001人
延べ定員数	12,410人	12,444人	12,410人
1日平均利用者数	26人	26.2人	23.3人
稼働率	78.31%	76.78%	68.51%

## (2) 運営状況

### ①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催しています。

本年度は、コロナ禍のため様々なレクリエーション活動に自粛・制限等がもたらされました。地域のボランティアとの交流も少なくなりましたが、そうした中でも、エクササイズや、音楽療法、そろばん等の活動を少しずつ再開し、利用者の心身機能の活性化に大変効果をあげています。また、本年度もペッパーとのレクリエーションの時間を多く持ち、歌やゲーム、リハビリ等ユニークなコミュニケーションタイムを創ることができました。コミュニケーションロボットとのかかわりは、海外メディアにも多く取り上げられています。



コミュニケーションロボット・ペッパーと利用者とのレクリエーション



口腔ケアをアシストしてくれるロボホン



春のお花見



スイカ割



季節のかざりものづくり



介護職員による演奏会



ボランティアによる音楽療法



アコーディオン演奏会



コロナ禍の介護職員による手作りイベント



表7 主な行事

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見 コロナ禍のため、中止</li> <li>・少しでも自然とのかかわりを持てたら、と、3階のベランダにゴーヤカーテン作りを始める</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鯉のぼりづくり、かぶとづくりにと、童心に還って楽しんだ</li> <li>・5月3日～7日まで、菖蒲湯祭り 菖蒲の香りに季節感を堪能した。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紫陽花鑑賞会 例年の紫陽花鑑賞ツアーはコロナ禍のため中止 施設中庭に開花した紫陽花を鑑賞、皆で季節感を楽しんだ</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七夕さま 利用者・職員ともに短冊づくりを楽しむ。コロナ収束を祈り、短冊を笹の葉に飾り付けし、涼やかに七夕さまを送った。</li> <li>・スイカ割り大会 デイ・特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。大会後のスイカのおやつは格別である。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑気払い そうめん、冷や麦、うなぎの蒲焼、南瓜の煮物等、暑さに負けない夏の味を愉しんだ。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。久寿玉を長寿の利用者に割ってもらい、健康寿命の大切さを皆で話し合うひと時を設けた。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の大運動会 特養、デイ合同の大運動会は、利用者が熱中するイベントだった。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紅葉狩りはコロナ禍のため中止。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスコンサート 職員によるハンドベル演奏が大変好評だった。恒例の築地ライオンズによるクリスマス会は、コロナ禍のため中止。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年会 利用者、職員との新年会は、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。</li> <li>・ミステリーツアーはコロナ禍のため中止</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月3日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。「鬼は外— 福は内—！」と、利用者の元気な声が、館内に飛び交った。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会 コロナ禍のため、前年同様中止となった。</li> <li>・お花見 例年より早い桜の開花に合わせ、京橋公園へ数人ずつのお花見を実施した。</li> </ul>

### ③送迎について

階段昇降機(スカラモービル)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができました。歩行困難なため、階段昇降がネックとなって外出ができなかった利用者を、デイサービス利用に繋げることができたことは、利用者の自己実現のひとつとして大きな成果でした。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日2名～4名の利用者の昇

降を行っています。

送迎においては、中央区他、江東区、港区、千代田区、世田谷区まで実施しており、98.3%の送迎率となっています。



スカラモービル  
コンパクトタイプ



スカラモービル  
車イスタイプ

#### ④入浴について

デイサービス利用理由の大きなひとつとして入浴があります。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は84.6%です。

身体状況に応じた入浴形態で対応しています。皮膚の異常、バイタルの変動等、入浴時に気づくことが多く、看護師が2名体制で対応しています。

#### ⑤機能訓練

理学療法士による個別機能訓練を実施しています。リハビリテーション病院を退院後に通われている利用者も多く、身心機能の維持に努めています。歩行アシスト、免荷式歩行器ポポ、デジタルミラーといったリハビリ・ロボットを活用しながらの訓練は、利用者のモチベーションも向上し、リハビリ効果を見せています。

## 4. 特養・デイサービス合同

### (1) 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し

- ①年中行事委員会 ②栄養委員会 ③身体拘束廃止委員会 ④排泄・褥瘡委員会
- ⑤ケアプラン委員会 ⑥感染症対策委員会 ⑦事故防止対策委員会 ⑧防災対策委員会
- ⑨リハビリ委員会 ⑩環境・口腔ケア委員会 ⑪安全・衛生委員会(介護職のための)
- ⑫ロボット委員会

等を開催しました。平成20年2月からは、毎月1回の各委員会の会議を開催しています。

### (2) 行事

四季折々の各種行事は、3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して各種行事に取り組みました。

### (3) 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在1名の職員が入団しています。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めました。新規に採用された職員には、消防機器訓練を随時実施しています。さらに、京橋消防署への研修参加の他、地域等の協力を得て、毎月1回「震災・消防訓練」を実施しています。

### (4) 職員研修

- ・4月～3月：毎月1回 本年度は、オンライン研修を実施しました。  
ZOOM を使うことで、法人全施設とつながることが可能となり、同時刻に一斉に研修を受けることができるようになったことは、コロナ禍での大きな収穫です。
- ・ネット配信サービスを活用した「eラーニング研修」を導入。職員が自分のペースに合わせて、希望するプログラムをいつでも受講することができるというメリットがあります。

表8 資格取得等に向けた職員研修(令和元年4月～令和3年3月)

研修名	特養	通所	訪問
初任者研修	1人	1人	0人
実務者研修	2人	1人	1人
介護福祉士資格取得研修	0人	0人	0人
口腔ケア研修会	0人	2人	0人

表9 社内研修

No.	名称	開催日	参加人数	実績
	オンライン研修 18:00~19:00	令和2年4月初~ 令和3年3月末	特養 デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	高齢者施設における感染症対策について	4/6	16人	特養4人・デイ9人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士1人
3-2	看取りについて	5/4	15人	特養4人・デイ7人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士1人
3-3	身体拘束廃止について	6/1	17人	特養4人・デイ11人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士1人
3-4	脱水・熱中症・水分補給について	7/6	15人	特養4人・デイ7人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士1人
3-5	特特別養護老人ホームにおける褥瘡ケア・スキンケア	8/3	14人	特養4人・デイ5人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士2人
3-6	感染症防止対策について	9/14	16人	特養4人・デイ7人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士2人
3-7	身体拘束廃止への取り組み	10/12	15人	特養4人・デイ6人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士2人
3-8	事故防止への取り組み	11/9	16人	特養4人・デイ8人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士1人
3-9	看取りについて	12/14	18人	特養4人・デイ10人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士1人
3-10	記録の書き方	1/11	15人	特養4人・デイ8人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士3人
3-11	苦情対応について	2/15	20人	特養4人・デイ11人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士1人
3-12	感染症防止対策について	3/15	18人	特養4人・デイ9人・訪問2人 栄養士1人・理学療法士2人
3-13	新人研修 認知症高齢者への理解	1/20	2人	特養 2人
3-14	新人研修 事故報告書の書き方	3/20	4人	特養 2人 デイ 2人



特養・デイ社内研修



特養：デイ合同感染症対策研修

### (6) ボランティア・実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをしています。

定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、傾聴ボランティア等が年 12 回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してきていましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、外部ボランティアも制限することになりました。

実習生は、介護福祉士取得に向けた実習生、教員免許取得実習生を受け入れましたが、インターンシップは新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに良質な刺激をもたらせる効果があるため、コロナ収束後は再び受け入れていきます。

表 10 令和 2 年度・実習生等の受け入れ実績

項 目	人 数 (延)
介護福祉士取得	10 人
教員免許取得希望者介護体験	76 人
職場体験	中止
インターンシップ	中止
小・中学生ボランティア実習	中止
イナッコ教室ボランティア	中止
春休み福祉体験合宿	中止

### (7) 技能実習生の受け入れ

令和 3 年 3 月より、中国からの技能実習生 1 名の受け入れを行いました。

指導員として、特養・デイの介護職 5 名を選び、介護業務、介護技術・接遇等の習得

を目的として育成していきます。期間は3年間です。

(8)本年度の取組みについて

◆特養

1. 【介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業】公募

- ・テーマ 「歯科医師によるオンライン指導」
- ・期間 令和2年7月～9月末
- ・施設が抱える課題 「特養利用者については加齢による口腔内トラブルや嚥下機能の低下によるリスクが常にあり、介護職の負担が大きい。食べることは利用者にとって大切な生活の一部であり、口腔ケアの質向上が課題である」
- ・実証研究で実現したいこと 「利用者自身では訴えられない口腔内トラブルについて、歯科医師による定時訪問診療の他オンライン指導を受けることで、利用者一人ひとりの問題もより精度が上がり、生活の質向上が図られる。介護職においてはオンラインによる情報共有の実現で、口腔ケアへの負担が軽減される」

表 11

作業内容	実施者	実施内容
オンライン会議を実施する	介護職 2名 栄養士 1名 施設長 1名 事務職 1名	1. オンライン会議に歯科医師を招待する 2. 事前に利用者の口腔内写真を口腔カメラで撮っておき、共有できるように準備する 3. 利用者一人ひとりの口腔内写真を歯科医師にオンラインで確認してもらい、指導を受ける
指導後の情報共有		1. 歯科医師からの指導・助言等の内容を口腔衛生管理に関わる助言内容(様式3)に記録し、メール等で歯科医師に送付。歯科医師に署名をいただき返送してもらう。 2. 指導・助言内容を施設内で共有する
実証試験における効果		1. これまでの歯科医師からの指導・助言の資料のみより、オンラインにより口腔内写真を確認しながら個別に詳しく指導・助言をいただいたことで、口腔ケアの質が向上した。

2. 【介護ロボット等モニター調査】

- ・テーマ 「排泄検知システムを活用した排泄ケアについて」
- ・期間 令和2年11月13日～令和3年1月末



表 12

実施体制	機器の名称	企業名
介護職 主任・副主任 施設長 事務職	排泄検知システム	新東工業株式会社

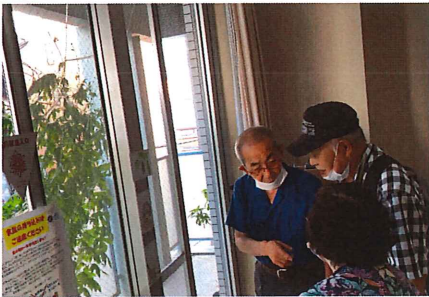
実施状況	
調査対象とした介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス種類：排泄ケア</li> <li>・内容：排泄ケアにおけるおむつ対応利用者のおむつ交換</li> </ul>
機器を利用した介護サービス場面	機器を利用したことで、おむつ交換時のタイミングを適正化し、おむつ対応利用者の適切なケアを実施
機器を利用した対象者の状態像、人数	<p>対象者：常時おむつ利用の方で、排泄行為の意思表示が難しい方 皮膚トラブルが起こりやすい方</p> <p>人数：2名</p>
モニター調査結果の収集と記録の方法	測定機器でスマホのアプリで通報時に「おならかも」「うんちかも」の表示に対し、詳細情報を直接登録する方法と、定時のおむつ交換時に排泄を確認した際、記録シートに時刻・状況を記入することを併用している。
機器の利用効果	<p><u>介護を受ける側への効果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尿・便を長時間接触してしまうことの不快感の軽減</li> <li>・皮膚トラブルの改善</li> </ul> <p><u>介護する側への効果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄状況がリアルタイムに通知されるため、迅速に対応できた。</li> <li>・機器による通知を確認することで、排泄ケアへの意識づけができた。</li> </ul> <p><u>介護業務の過程における効果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニター段階では効率アップにはならなかったが、感知の正確さが向上し、長時間使用できれば利用者の排泄パターンを知ることができると感じた。</li> </ul>

◆デイサービス

1. 認知症予防プログラムへの取り組み

- ・ゴーヤカーテンづくり
- ・ベランダ菜園
- ・頭脳レク 本年度は、コロナ禍のため外出レクも中止となり、利用者様へのプログラムの一環として、認知症予防プログラム：ゴーヤカーテンづくり、ベランダ菜園等への取り組みを行いました。

種を蒔くことから始め、発芽し、蔓が伸び、つぼみをつけ、花と開花していく様はコロナ禍で引き籠もる時間の多い高齢者にとって、大変良い刺激となりました。



## (9) 地域公益活動

### ① 東京子育て応援事業

平成 28 年 6 月～平成 30 年 3 月末の 2 ヶ年にかけて、東京都の助成事業「東京子育て応援事業」に取り組んできましたが、助成期間を過ぎた後も継続して運営してきました。

平成 30 年 4 月からは、法人の独自事業として「子ども英会話教室」を開催し「子どもそろばん教室」「子ども食堂」と併せて、地域の子どもたちの安心・安全な居場所づくりとして運営を展開してきました。

### ② 平成 30 年度子供が輝く東京・応援事業

「成果連動型助成(既存の取組みレベルアップ)」に選定

平成 30 年度子供が輝く東京・応援事業に選定されました。成果連動型助成という、成果に応じて 1/4、3/4 と助成が連動していくため、成果をより見える化していかなければならない取組みです。

- ・ 事業実施期間：平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月 31 日
- ・ 実施事業名【未来の社会で輝ける子育て支援事業の実現】
- ・ 事業計画

#### 【プログラム】

- 1) 1 ヶ月め：アンケートの作成  
登録書の配布

地域への説明会(学校、保護者等)

2)2カ月め：評価指標のデータの収集方法と書式の整理

登録書の受領

体験学習の実施

3)3カ月め：指標データの評価と進め方の見直し・改善案の検討

#### 【成果目標】

- 同世代、多世代とのコミュニケーションを取りながらの食事は、食べることへの楽しみを育み、感性を養い、孤食問題への一助となる。
- そろばん教室で数多くの問題を繰り返し反復練習することによって忍耐力を鍛え、英会話教室で異文化と触れ合うことで国際感覚を養うことを目指す。
- 介護現場体験を通して「高齢者と介護」というテーマに自然に向き合える人間形成を実現する。

#### 【実施状況】 平成31年4月～令和2年3月末

○新とみ 子どもそろばん教室+子ども食堂 7回開催

○新とみ 子ども英会話教室+ 子ども食堂 8回開催

●土支田 子どもそろばん教室+子ども食堂 4回開催

●土支田 子ども英会話教室+ 子ども食堂 4回開催

※戸山いつきの杜については、令和2年3月15日より実施の予定だったが、感染症の流行により延期となった。

#### 【実施状況】 令和2年4月～令和3年3月末

※ コロナ感染防止のため、新とみの子ども食堂は中止

○新とみ 子どもそろばん教室 2回開催

○新とみ 子ども英会話教室 2回開催

●土支田 子どもそろばん教室+子ども食堂 2回開催

●土支田 子ども英会話教室+子ども食堂 2回開催

◎戸山 子ども英会話教室+子ども食堂 1回開催

本年度は、各事業所ともにコロナの影響を受け開催月は大幅に減ってしまいました。

平成30年4月1日～令和3年3月31日まで取り組んできた「子どもが輝く東京応援事業：成果連動型助成」の実績を東京都福祉保健財団に提出しました。

子ども・親へのアンケート結果の集計を基に、評価指標データの集計結果として子ども・親への成果は3/4助成という形で、東京都福祉保健財団より一番高い評価をいただきました。

子育て応援事業については、助成期間を終了したあとも、法人独自の事業として継続していきます。

## 子ども英会話教室・そろばん・みんなで食事

開智日本橋学園・上智大学留学生のボランティアの皆さんと

平成30年4月～令和2年3月



コロナ禍の中で感染防止に注力しつつ、子育て応援を継続してきました  
令和2年4月～令和3年3月末



## 5. 訪問ヘルパーステーション

### (1)はじめに

平成28年3月1日、新とみ併設として「ウイング訪問ケアステーション」を開設しました。本年度も新規利用者の開拓に力を入れましたが、移動時間の効率性・ヘルパーの負担軽減・業務効率を考え、近隣でのサービス開拓に注力いたしました。

1. サービス提供時間 8時30分～18時(時間外については応相談)
2. 実施地域 中央区・港区・千代田区・江東区
3. サービス内容  
身 体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等  
生活援助：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等

4. 本年度利用者実人数 398人 昨年度 368人  
 5. 新規利用者数 24人 昨年度 16人

表 15 要介護度別利用者状況

要介護度	令和元年度利用 人数	令和元年度延人 数	2年度利用人数	2年度延人数
要支援 1	52人	234人	79人	354人
要支援 2	28人	119人	41人	215人
要介護 1	54人	264人	60人	328人
要介護 2	73人	587人	81人	428人
要介護 3	77人	935人	70人	1,243人
要介護 4	35人	837人	45人	699人
要介護 5	49人	687人	22人	170人

#### ① 利用者の状況

表 15 にあるように、要支援から要介護 5 の利用者まで、生活、身体介助と幅広いニーズがあります。要支援の利用者には、利用者の自立支援を促す援助を行うことが重要であり、質の高い援助技術が求められます。

在宅においては、介護度の高い利用者が訪問介護サービスを利用しながら在宅生活を維持しており、利用者はもとより、家族の生活を支える上でも訪問介護は重要な役割を果たしています。

今後、訪問看護、訪問診療等様々なサービス提供事業者との連携が不可欠であり、情報共有を図りながら、清潔かつ安心・安全な在宅生活の維持に努めます。

また、本年度も新型コロナウイルスの影響を受け、訪問サービスのキャンセル等があり、売り上げにも影響がありました。

また、訪問スタッフへの感染防止対策にも注力しました。

#### ②地域・在宅の課題

- ・在宅における、劣悪な療養環境の問題
- ・認知症状の進行におけるもの盗られ妄想による金銭トラブル
- ・近隣住民とのトラブル
- ・家族の介護ストレスによる心疾患

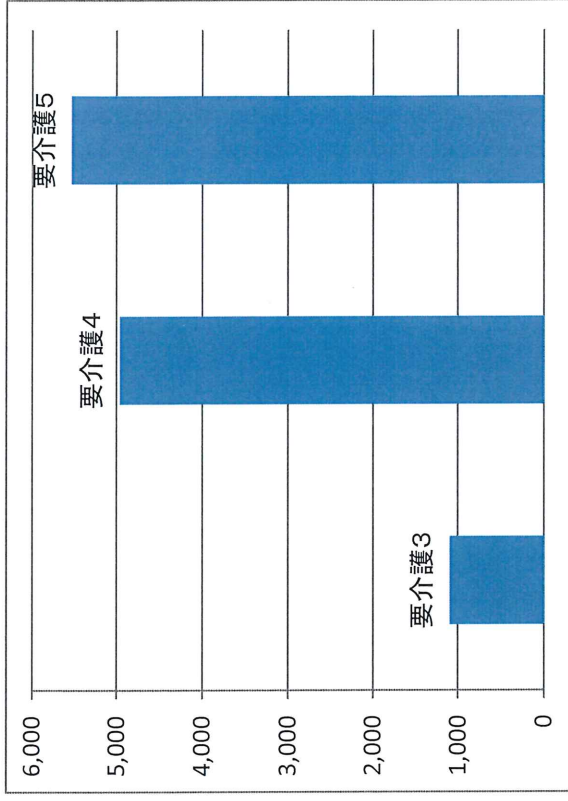
これら地域・在宅における課題は、訪問ヘルパーが関わるケースも多々あり、研修を始めとした教育は必須であり、質の高いサービス提供が急がされます。

(別表1)

## &lt; 年度末平均年齢 &gt;

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	9名	83.0	72～91
女	24名	90.4	78～101
(全体)	33名	88.4	72～101

(別表3)



(別表2)

## &lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護3	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	84	94	1,096
要介護4	384	403	406	419	408	410	434	420	411	404	404	457	4,960
要介護5	523	548	540	529	513	441	433	402	387	411	364	434	5,525
計	997	1,044	1,036	1,041	1,014	941	960	912	891	908	852	985	11,581
要介護平均	4.43	4.44	4.43	4.42	4.41	4.37	4.35	4.34	4.33	4.35	4.33	4.35	4.38
実人員	34	34	35	35	35	34	33	34	31	31	31	33	400
述べ定員数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,120	1,240	14,600
1日平均利用者数(人)	33.2	33.7	34.5	33.6	32.7	31.4	31.0	30.4	28.7	29.3	29.4	31.8	31.7
稼働率	83.08%	84.19%	86.33%	83.95%	81.77%	78.42%	77.42%	76.00%	71.85%	73.23%	76.07%	79.44%	79.32%

特養（定員40名）

(別表4)

&lt; 年度末平均年齢 &gt;

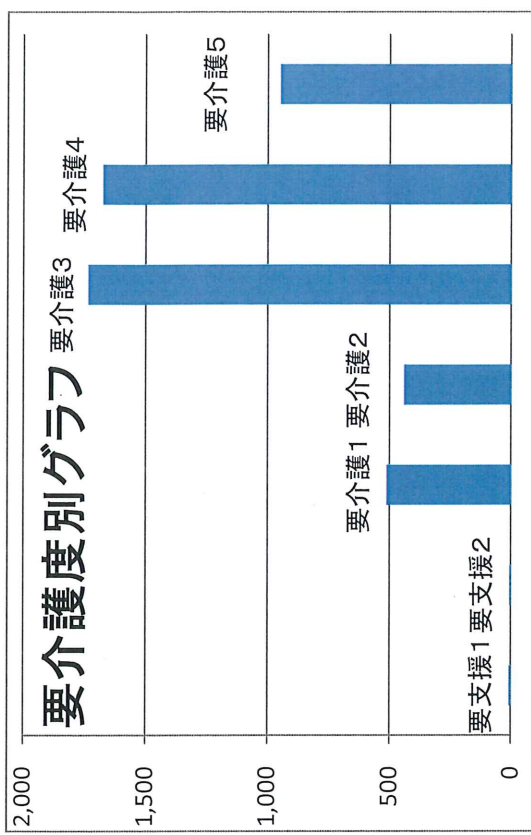
性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	23名	84.8	76～94
女	27名	85.6	69～100
(全体)	50名	85.3	69～100

(別表5)

&lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1										6			6
要支援2									1	1		2	4
要介護1	59	33	15	53	82	39	27	40	32	41	43	48	512
要介護2	21	20	50	18	17	70	60	30	41	39	26	48	440
要介護3	174	185	117	115	144	128	145	137	139	137	180	135	1,736
要介護4	97	103	102	109	106	141	168	226	174	158	144	148	1,676
要介護5	62	63	70	71	70	66	97	98	122	60	67	102	948
計	413	404	354	366	419	444	497	531	509	442	460	483	5,322
要介護平均	3.20	3.35	3.46	3.35	3.16	3.28	3.50	3.59	3.61	3.32	3.36	3.42	3.39
実人員	37	34	38	40	42	47	55	55	56	51	46	50	551
延べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2,190
1日平均利用者数(人)	13.8	13.0	11.8	11.8	13.5	14.8	16.0	17.7	16.4	14.3	15.9	15.6	14.6
稼働率	229.44%	217.20%	196.67%	196.77%	225.27%	246.67%	267.20%	295.00%	273.66%	237.63%	273.81%	259.68%	243.01%

(別表6)





(別表7)

## &lt; 年度末平均年齢 &gt;

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	38名	81.1	51～96
女	49名	85.4	62～97
(全体)	87名	83.5	51～97

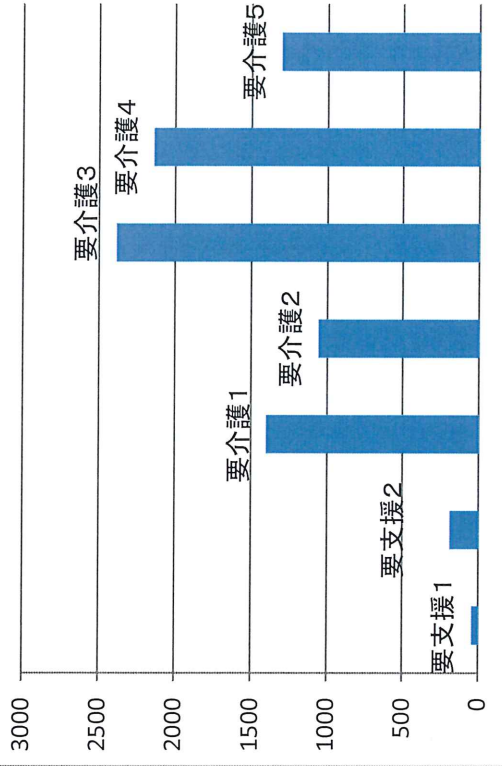
(別表8)

## &lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1			3	5	3	4	5	4	4	5	4	4	41
要支援2	10	9	11	16	20	23	19	17	19	17	11	13	185
要介護1	103	102	104	124	116	105	104	105	155	142	111	126	1,397
要介護2	63	63	73	81	84	101	94	91	105	101	87	112	1,055
要介護3	185	181	210	211	201	191	215	207	225	181	178	200	2,385
要介護4	159	151	173	190	203	180	197	167	193	173	159	193	2,138
要介護5	115	113	118	129	100	93	100	103	99	103	105	123	1,301
計	635	619	692	756	727	697	734	694	800	722	655	771	8,502
要介護平均	3.16	3.15	3.14	3.10	3.05	3.00	3.06	3.04	2.91	2.93	3.04	3.05	3.05
実人員	75	66	80	87	84	82	85	86	92	92	85	87	1,001
述べ定員数	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	952	1,054	12,410
1日平均利用者数(A)	21.2	20.0	23.1	24.4	23.5	23.2	23.7	23.1	25.8	23.3	22.6	24.9	23.3
稼働率	62.25%	58.73%	67.84%	71.73%	68.98%	68.33%	69.64%	68.04%	75.90%	68.50%	68.80%	73.15%	68.51%

(別表9)

## 要介護度別グラフ



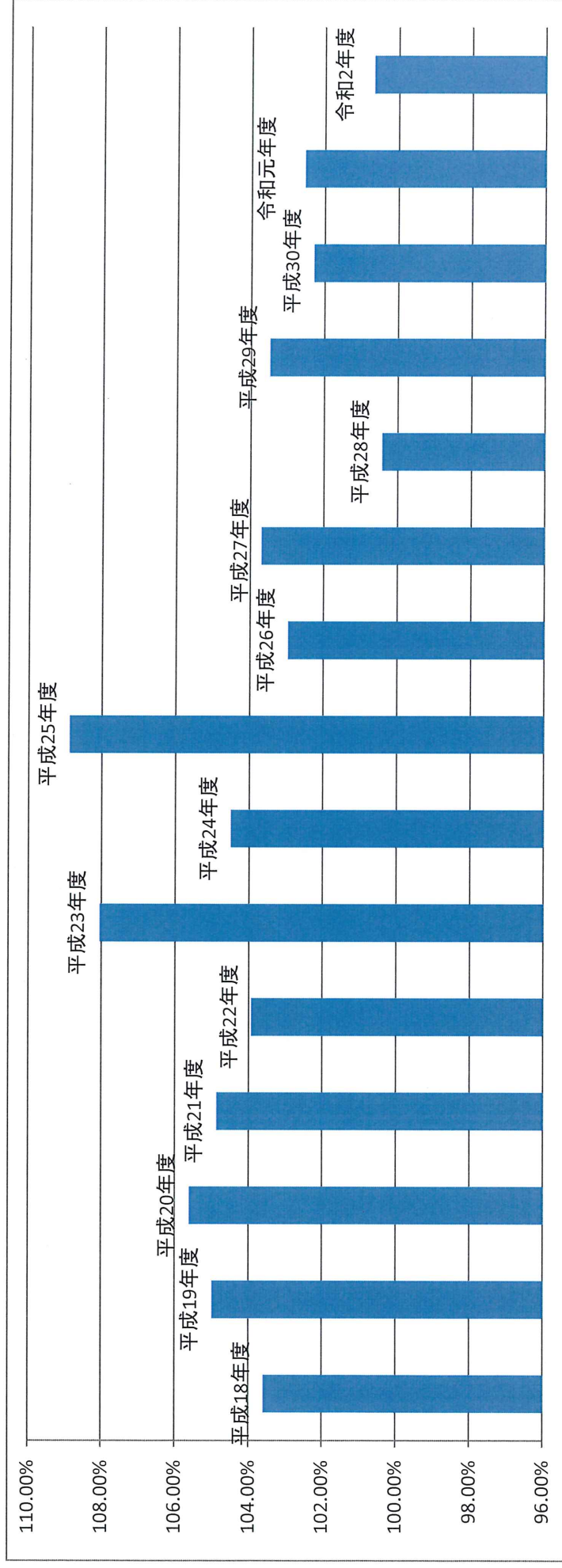
デイサービス（介護予防含む）（定員34名）

(別表10) &lt; 月別稼働率 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養	997	1,044	1,036	1,041	1,014	941	960	912	891	908	852	985	11,581
ショートステイ	413	404	354	366	419	444	497	531	509	442	460	483	5,322
計	1,410	1,448	1,390	1,407	1,433	1,385	1,457	1,443	1,400	1,350	1,312	1,468	16,903
延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,288	1,426	16,790
稼働率	102.17%	101.54%	100.72%	98.67%	100.49%	100.36%	102.17%	104.57%	98.18%	94.67%	101.86%	102.95%	100.67%

特養・ショート(定員46名)

(別表11)



稼働率

18年度	104.99%	19年度	105.61%	20年度	104.88%	21年度	103.93%	22年度	108.05%	23年度	104.50%	24年度	108.88%	25年度	102.96%	26年度	103.69%	27年度	100.42%	28年度	103.48%	29年度	102.29%	30年度	102.54%	元年度	100.67%	2年度	100.67%
------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	-----	---------	-----	---------